

【農地整備課所管 事後評価審議資料】

○経営体育成基盤整備事業（輪之内南部地区）

- ・事後評価箇所表
- ・説明資料（パワーポイント）

# 平成23年度事後評価箇所表

担当課〔農地整備課〕

番 号	1	事業名 (路線名等)	経営体育成基盤整備事業 輪之内南部地区																			
実施箇所	安八郡輪之内町大吉新田、藻池新田、 海松新田、松内地内		全体事業費	(当初3,407百万円) 4,467百万円																		
採択年度	平成7年度	完了年度	平成21年度																			
事業目的	<p>本地区は西濃地域の穀倉地帯であるが、区画は10a程度と小さく、また、農道の幅員は1.8～3.5mと狭く、水路は用排兼用の土羽水路であったため、区画整理や用排水施設等を整備し、大型機械の導入及び農地の乾田化を行い、農地の利用集積を促進することで、農業経営の安定化や経営体の育成を図る。</p>																					
事業概要	<table border="0"> <tr> <td>受益面積</td> <td>188.7ha</td> <td>整地工</td> <td>172.4ha、</td> <td>道路工</td> <td>31.3km</td> </tr> <tr> <td>受益者数</td> <td>346人</td> <td>用水路工</td> <td>33.5km、</td> <td>排水路工</td> <td>28.0km</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>暗渠排水工</td> <td>165.6ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				受益面積	188.7ha	整地工	172.4ha、	道路工	31.3km	受益者数	346人	用水路工	33.5km、	排水路工	28.0km			暗渠排水工	165.6ha		
受益面積	188.7ha	整地工	172.4ha、	道路工	31.3km																	
受益者数	346人	用水路工	33.5km、	排水路工	28.0km																	
		暗渠排水工	165.6ha																			
概要図																						

## 評価結果

### ① 住民参加・協働による効果

- ・事業の計画から工事段階では、土地改良組合の代表、町からなる「輪之内南部土地改良組合工事委員会」を設置し、意見要望を聞きながら事業を進めた。
- ・資源保全会を組織し、農業用施設の維持管理や水路等の生物調査に取り組んでいる。

### ② 事業効果

#### 【直接的効果】

#### ○高生産性農業の展開

大区画ほ場に整備した結果、生産効率が向上し、事業を契機に設立された6つの営農組合などに農地の利用集積が図られた。

また、水田の乾田化に伴い、麦・大豆の作付面積が拡大し、生産性、収益性の高い農業が展開されるようになった。

- ・農地集積率 95%、土地利用率 142%

#### ○用水路安定供給

農家へのアンケート調査によれば、地区内の用水路がパイプライン化された事により「安定的な取水が可能になった」という回答が94%に上った。

#### 【間接的効果】

大根、加工用トマトの栽培も始まり、高齢者に雇用の場を提供し、将来的には加工用トマトで6次産業化を目指している。

また、輪之内町が輪之内スイーツとして開発した「お米アイス」を民間のジェラート店が製造し「豆乳リゾットジェラート」という商品名で販売が開始されたが、このジェラートには本地区の大吉営農組合が生産した大豆「フクユタカ」も材料として使われ、町のPRに一役買っている。

#### 【その他】

平成22年度農業農村整備優良地区コンクール（農業生産基盤整備部門）において、農業農村整備事業の実施を契機に生産性や収益性の高い農業経営の展開を積極的に推進している地区として、農村振興局長賞を受賞する。

### ③ 環境面への配慮

- ・本事業を契機に、地元住民によって地区内を流れる西江川沿いに150本のサクランボが植栽され、実をつける平成25年には、輪之内南部土地改良組合が中心となり、地域住民にふれあいの場を提供するための「サクランボまつり」が計画されている。

### ④ 事業を巡る社会情勢の変化

- ・事業前の地区内農地の利用集積面積は9.6haであったが、本事業を契機に6つの営農組合が新たに設立され、地区内の農地の95%に相当する179.7haがこれらの営農組合などに利用集積された。

また、農地の乾田化が図られたことにより、麦や大豆の作付面積が拡大し、水稻・麦・大豆の2年3作体系の営農が確立され、土地利用率が109%から142%となった。

### ⑤ 利用者・地域住民等への効果

#### 【利用者、地域住民等の意見】

関係集落の農家、非農家を対象にアンケート調査を実施するとともに、営農組合等の関係者から聞き取りを行った。

#### （アンケート調査の実施状況）

農家 150戸配布→ 86戸回収（回収率57%）

非農家 30戸配布→ 20戸回収（回収率67%）

#### ○満足度（アンケート調査結果）

- ・事業全体の評価としては約7割が「事業を実施してよかった」と回答している。
- ・事業目的別では、「用排水の管理が楽になった」が92%、「運搬作業等が改善された」が89%、「水田の転作が容易になった」が87%、「用水の安定的な取水が可能となった」が94%であった。

・事業の波及効果への質問においても、「地域農業の発展をもたらした」、「地域の生活環境が改善された」等、7割以上が評価している回答であった。

○具体的な提案意見

- ・土羽水路の改修に伴い小魚やカエル、ヘビなどの小動物が減少したという意見があった。
- ・農道整備により利用しやすくなった反面、一般車両の通行が増えたので、交通安全施設に関する整備の必要性を求める意見があった。

○営農組合等への聴き取り

- ・水田の汎用化に伴い大規模な農地の集積が実施でき、集落営農による2年3作体系が確立した。
- ・水管理や施設の管理が大変楽になった。

⑥ 対応方針

【今後の事後評価の必要性】

事業完了後の農地の利用集積率（95%）や土地利用率（142%）の達成状況から事業の目的は十分達成されていると判断できる。

また、アンケート結果においても地域の満足度は高いことから、今後の事業評価は必要としない。

【改善措置の必要性】

なし

【新規事業へ適用すべき留意点】

アンケート調査において、土羽水路を改修したことでカエルや小魚などが減少したという意見があったため、今後は、現在実施している環境への1工事1配慮を推進するとともに、事業の中で水田と水路の繋がりを再生する水田魚道の設置についても検討を行う。



# 経営体育成基盤整備事業 輪之内南部地区 の事後評価結果



(写真:揖斐川左岸地区)

ほ場の大区画化や用水路、排水路、農道、暗渠排水などの整備を行う

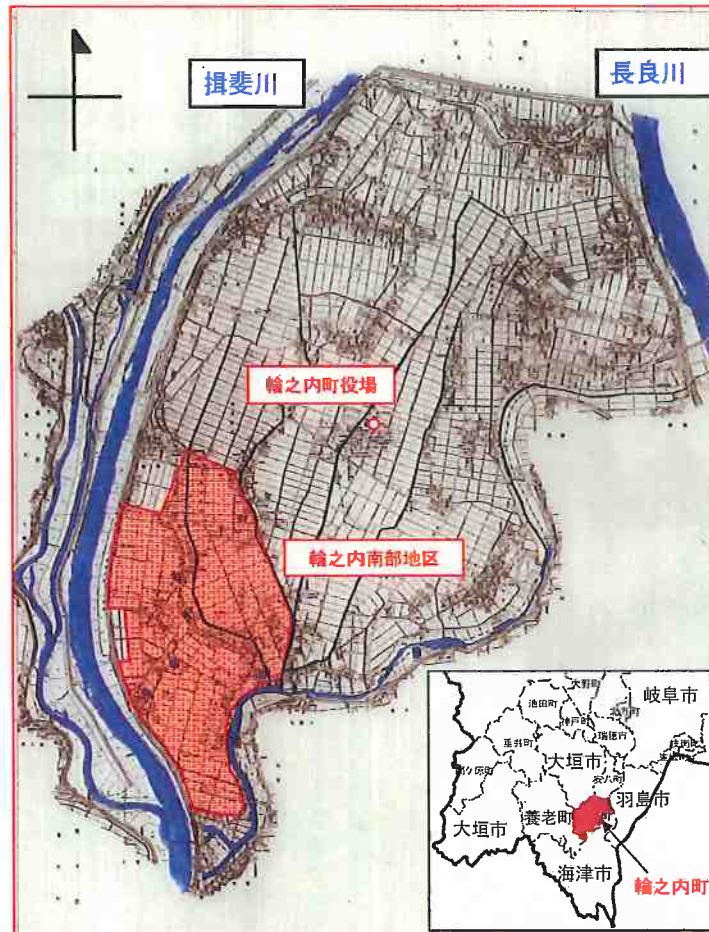


生産コストの縮減や水田の乾田化による畑作物の作付が可能となる



農業経営の強化、担い手への農地の利用集積を進め、経営体の育成を図る

# 位置図



## 事業概要

事業名	経営体育成基盤整備事業
地区名	輪之内南部地区
市町村名	輪之内町
工期	H7～H21
事業費	4,467百万円(当初3,407百万円)
工事内容	受益面積 A= 189ha 道路工 L=31,328m      用水路工 L=33,490m 排水路工 L=27,958m      整地工 A= 172ha 暗渠排水工 A= 166ha
事業目的	本地区は西濃地域の穀倉地帯であるが、区画は10a程度と小さく、また、農道の幅員は1.8～3.5mと狭く、水路は用排兼用の土羽水路であったため、区画整理や用排水施設等を整備し、大型機械の導入及び農地の乾田化を行い、併せて農地の利用集積を促進することで、農業経営の安定化や経営体の育成を図る。



# 工事内容 (イメージ図)

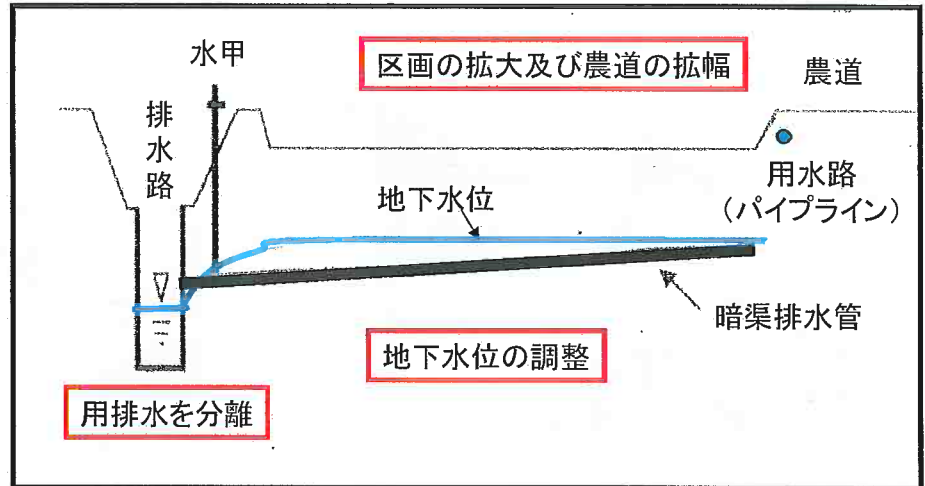
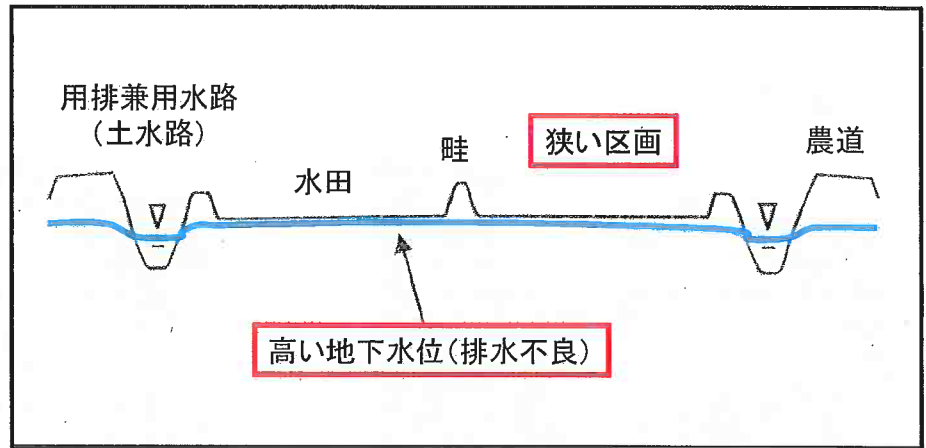
## 整備前

- ・区画が狭く生産効率が低い
- ・畑作物の作付けに適さない



## 整備後

- ・大区画化により生産効率の向上
- ・乾田化により畑作物の作付けが可能となる



# 工事内容(その1)

## 整備前



## 整備後



### 整地工(水田)

整備前	： 概ね0.1ha程度	
整備後	： 1.0ha以上	58%
	1.0ha~0.5ha	26%
	0.5ha未満	16%

### 暗渠排水を整備(166ha)

→ 水田の乾田化が図られ、畑作物(麦・大豆等)の作付面積の拡大を促進する

## 整備後



## 工事内容(その2)

### 農道(耕作道)



整備前

幅員：1.8m程度

拡幅



整備後

幅員：5.0m

### 用排水路



整備前

用排水兼用の土羽水路

分離



整備後

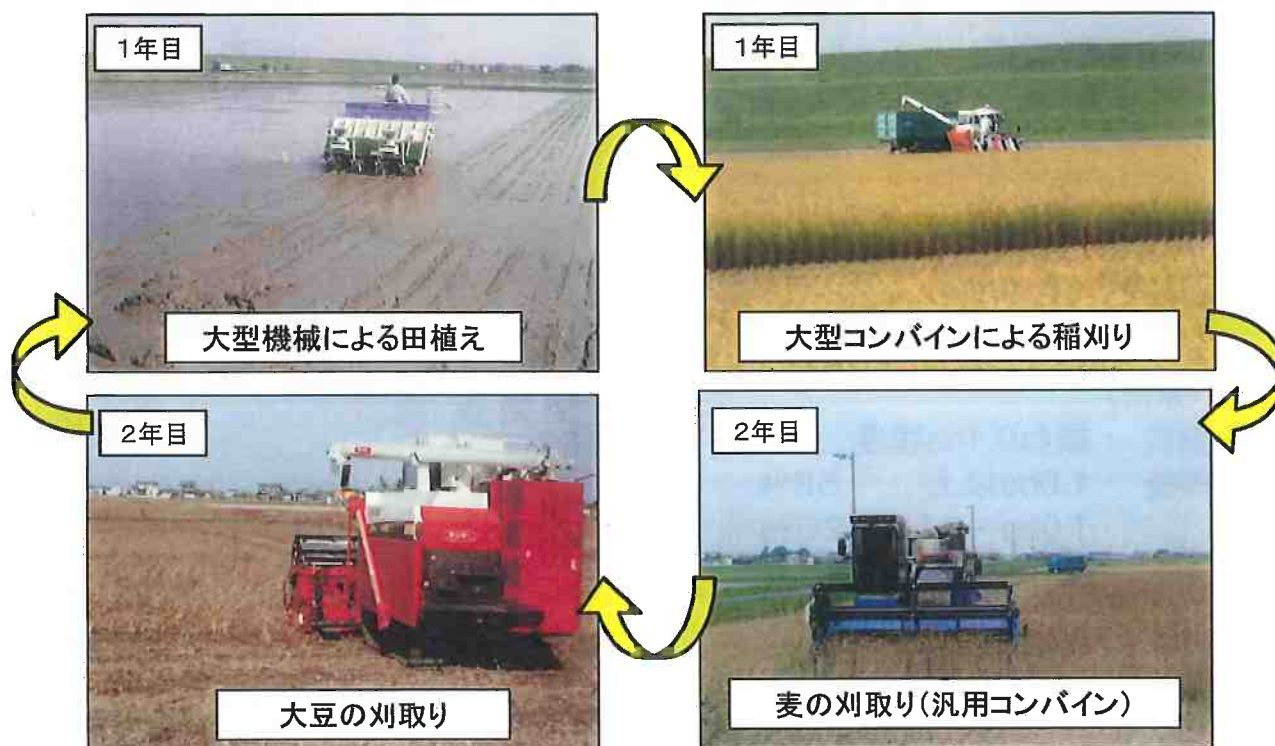
コンクリート二面張りの排水路



パイプ方式の用水路

## 整備後の営農状況

大型機械の導入や米・麦・大豆の2年3作の営農体系の確立により、水田の生産調整地での麦・大豆等の作付が拡大し、土地利用率の向上(109%→142%)が図られた。





# 住民協働の取り組み

地域ごとに資源保全会を組織し、農業用施設の維持管理などに非農家を含めて取り組んでいる。



施設の点検・清掃



小学生による生き物調査

## <構成委員>

- ・自治会長
- ・老人クラブ
- ・女性クラブ
- ・小学校校長
- ・PTA会長
- ・教育委員会
- ・土地改良区総代
- ・営農組合長
- ・土地改良組合理事長
- ・行政(輪之内町)

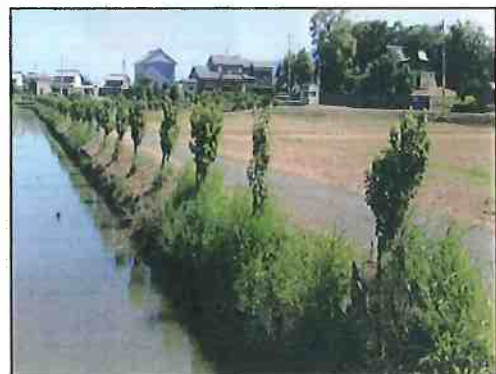
# コスト縮減・環境配慮の取り組み

## コスト縮減

縮減項目	具体的な事例	縮減額
工事設計の見直し	建設発生土の利用	122,000 千円

## 環境配慮

事業を契機に地元住民による『さくらんぼ』の植樹(150本)を行う。



# 投資効果の分析

## 【便益の内容】

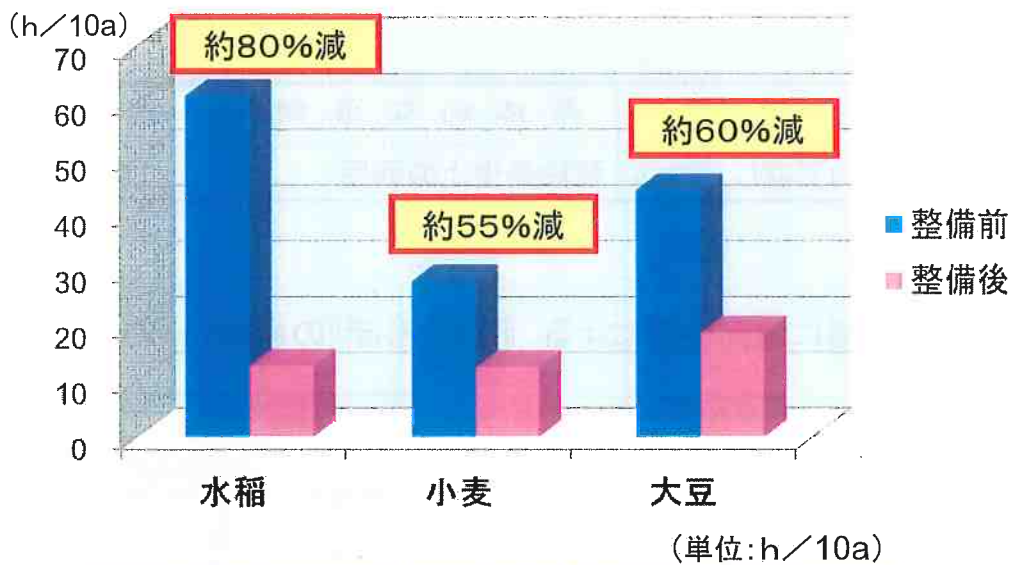
- ①作物生産効果 (11%)
- ②営農経費節減効果 (83%)
- ③維持管理費節減効果 ( 2%)
- ④その他 ( 4%)



$$\text{費用対効果} = \frac{\text{妥当投資額(便益)}}{\text{総事業費}} = 1.07$$

## 事業効果(その1)

◇事業計画における主要作物の10a当りの労働時間の短縮

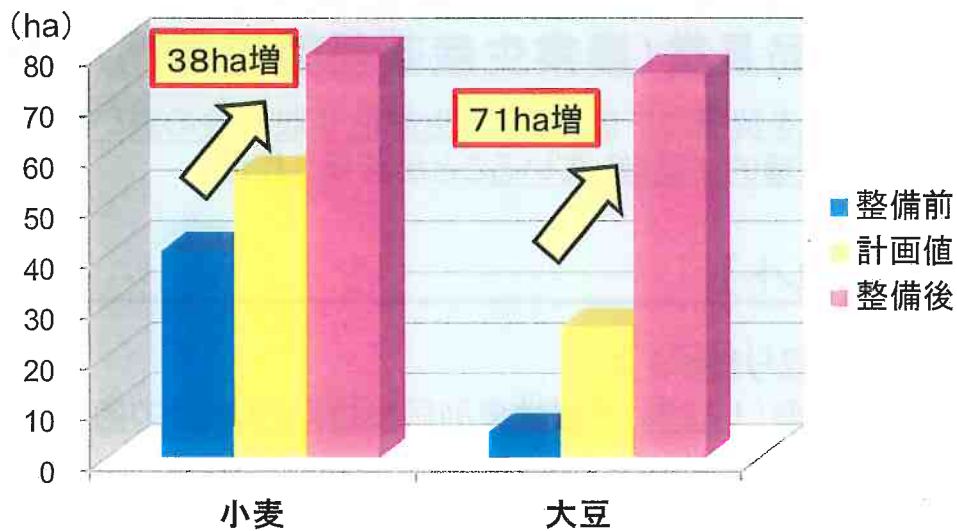


	整備前	整備後	縮減時間	縮減割合
水稲	61	13	-48	-79%
大豆	28	13	-15	-55%
小麦	44	19	-25	-57%



## 事業効果(その2)

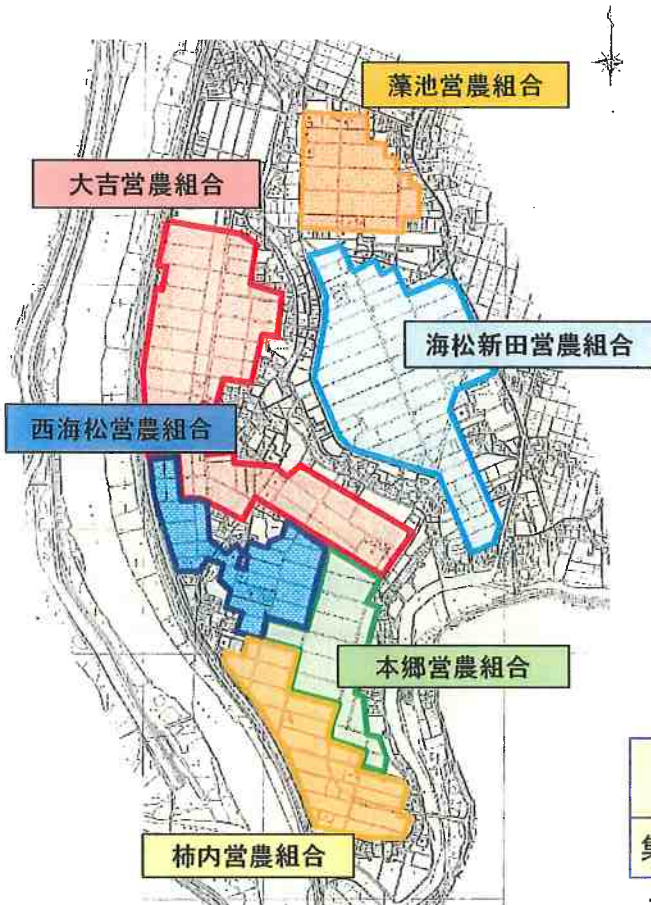
### ◇主要作物の作付面積の増加



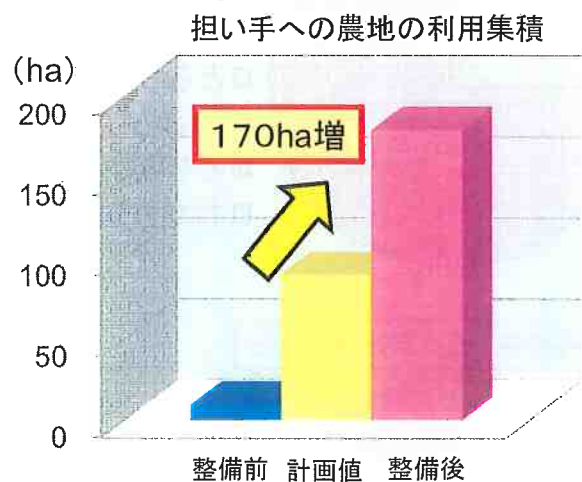
(単位: ha)

	①整備前	計画値	②整備後 (H22)	増加量 (②-①)
小麦	41	56	79	38
大豆	5	26	76	71

## 社会情勢の変化(その1)



事業を契機に6つの営農組合が設立され、地区内農地の95%が集積された。



(単位: ha)

	①整備前	計画値	②整備後 (H22)	増加量 (②-①)
集積面積	10	90	180	170



## 社会情勢の変化(その2)

### 平成22年度 農業農村整備優良地区コンクール 農村振興局長賞(農業生産基盤整備部門)を受賞

- ・事業の実施を契機に下記のとおり生産性や収益性の高い農業経営の展開を積極的に推進していることが評価された

#### 【評価ポイント】

##### <全体の取り組み>

- ・土地利用率(142%)や農地の利用集積率(95%)の向上

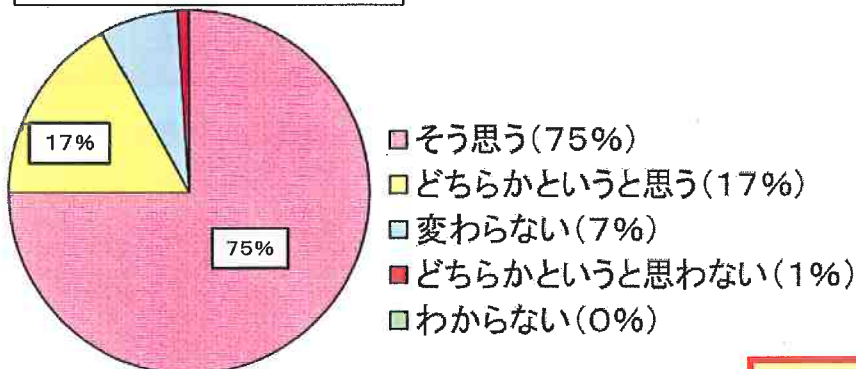
##### <新たな取り組み>

- ・刺身のつま用の大根や缶詰用のトマトの栽培を新たに開始
- ・輪之内町が開発し、民間企業が販売するジェラートに本地区の大豆を使用

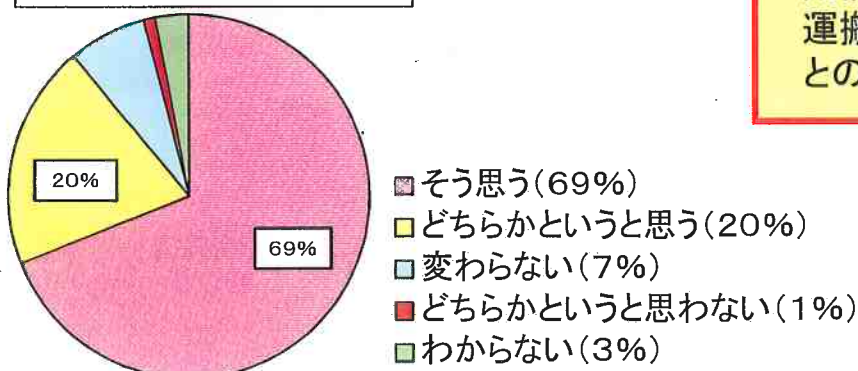
## アンケート結果(その1)

対象	配布	回収	回収率
農家	150戸	85戸	57%

#### 用排水の管理が楽になった



#### 運搬作業、通行が改善された

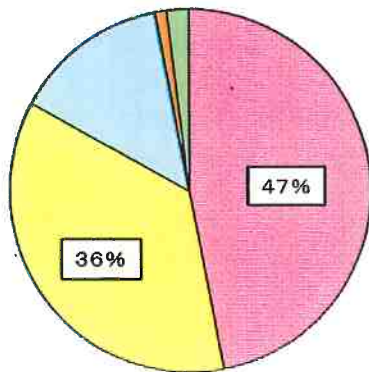


回答者の約9割の方から用排水の管理が楽になり、運搬作業等が改善されたとの回答を得ました。

## アンケート結果(その2)

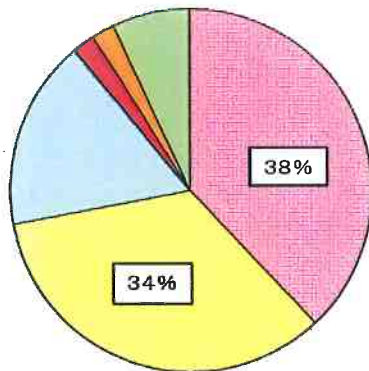
対象	配布	回収	回収率
農家	150戸	85戸	57%
非農家	30戸	20戸	67%
合計	180戸	105戸	58%

地域の生活環境(道路や水路など)が改善された



- そう思う(47%)
- どちらかと思う(36%)
- 変わらない(14%)
- どちらかと思うと思わない(0%)
- 思わない(1%)
- わからない(2%)

地域農業の発展をもたらした



- そう思う(38%)
- どちらかと思う(34%)
- 変わらない(17%)
- どちらかと思うと思わない(2%)
- 思わない(2%)
- わからない(7%)

回答者の7割以上の方から地域の生活環境が改善し、地域農業の発展をもたらしたとの回答を得ました。

### 【今後の事後評価の必要性】

農地の利用集積率(95%)や土地利用(142%)の達成状況から事業の目的は十分に達成されていると判断できる。また、アンケート結果においても地域の満足度は高いことから、**今後の事業評価は必要としない。**

### 【改善措置の必要性】

改善措置の必要性はない。

### 【新規事業へ適用すべき留意点】

アンケート調査において、土羽水路を改修したことでカエルや小魚などが減少したという意見があったため、今後は、水田と水路の繋がりを再生する水田魚道の設置についても検討を行う。